

# KEIWA COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌  
敬和カレッジ・レポート

## 第60号 October 2009

発行/敬和学園大学後援会 敬和学園大学広報委員会



## Close up

「法をとおして社会を見よう」国際文化学科 藤本 晃嗣

留学生の受け入れ 日本語・日本文化研修プログラム (JCLP)  
アメリカ・アリゾナ州へ留学 夏期短期留学プログラム (ACLP)

「新潟学生非核平和宣言」を世界に発信  
大学連携 質の高い専門職間の連携を目指して  
たくさんの思いが集まった新潟国体  
小人数教育を活かしたキャリア支援  
舞台『12人の怒れる男たち』のご案内/敬和祭のご案内



## 新発田まつり民謡流し

敬和学園大学のある新発田市では、毎年8月の下旬に「城下町新発田ふるさとまつり」が行われます。

今年も多数の学生有志と教職員が民謡流しに参加しました。初参加となる1年生からは「とっても楽しかったです！これから毎年出ようと思います！」といううれしい声も。また、最後の参加となった4年生からは「来年もOB・OGとして出てもいいですか？」という声も聞くことができました。

## もくじ CONTENTS

Close up .....	1
「法をとおして社会を見よう」 藤本 晃嗣	
留学生の受け入れ.....	4
日本語・日本文化研修プログラム (JCLP)	
アメリカ・アリゾナ州へ留学.....	5
夏期短期留学プログラム (ACLP)	
「新潟学生非核平和宣言」を世界に発信.....	6
大学連携 質の高い専門職間の連携を目指して...	7
たくさんの思いが集まった新潟国体.....	8
小人数教育を活かしたキャリア支援.....	9
就職に向けて大学に期待すること	
ご報告・ご案内.....	10
夏休み子ども陶芸教室 推薦入学試験がスタートします 舞台『12人の怒れる男たち』	
第19回 敬和祭を開催します .....	11
同窓会リレーエッセイ⑫.....	12
「続けられる価値との出会い」 織田 智頼	
キャンパス日誌.....	13

〈表紙写真〉

揃いのTシャツでの応援が選手に大きな力を与えました (p.8)

# 法をとおして社会を見よう

## ●日本酒が取り結んだ阿賀北との縁

学生時代のある夏、私は阿賀北のとある無人駅に友人と降り立っていました。学生時代を過ごした京都の駅を朝六時に出発し、青春一八切符でその駅に到着したのは夜八時過ぎで、すでに辺りは漆黒の闇。そのまま駅に泊まることにして、翌朝目指す酒蔵へと向かいました。

私は学生時代、気の合う友人と下宿でよく飲んでいましたが、近くに地方の地酒を売っている酒屋があり、そこでたまたま購入した酒が新潟県の日本酒でした。それまでの日本酒のイメージは、甘ったるく酔うためのものばかり…でしたが、そのお酒の美味しいこと！その後、新潟の

酒をいくつか購入しましたが、どれもがこれまで日本酒とは異なりました。本物の「淡麗辛口」との最初の出会いでした。はじめに書いた無人駅に降り立ったのは、「京都にはない、美味しい日本酒を飲みに行こう！」という学生らしい動機からでした。

翌日試飲させていただいた蔵元さんの酒が美味しかったこと！それから一〇数年後、まさか私がその酒蔵の近くの大学に赴任できると思っていまませんでした。赴任してからは、県外ではあまり知られていない多くの銘酒に出会えました。季節の変化や冷蔵・常温などの保存状態によって味や香りを鮮やかに変化させる新潟の酒の凄さには、未だに新たな感動を覚えます。

## ●大学での講義と研究―国際法学

私が教えているのは「国際法学」といわれる法学の一分野です。国際法は、英語で「International law」と表記されるように、「国と国との関係を取り結ぶルール」の意味合いが強く、私たち個人には関係のないものとの認識が生まれがちです。しかし、事実は全く逆で、私たちの生活に大きな影響を及ぼす法の一つです。例えば環境問題に関して、京都議定書という国際条約があります。これは日本に二酸化炭素排出量の削減を求めるものです。この要請は日本という国家にのみ向けられたものではなく、私たち個人の生活態様に影響を及ぼします。各地で始まっている自家用車に乗

# Close up

国際文化学科  
藤本 晃嗣





阿賀北の酒蔵での青春の1コマ

る回数を減らす運動などはその典型例でしょう。このように見てみると、国際法は国際社会の要請を日本に伝える「外圧」であるとの考え方が、一部の支持を受けるかもしれません。しかし、日本は京都議定書の例を待たず、国際条約の成立にこれまで積極的な役割を果たしてきた事実を忘れてはなりません。日本も国際社会の一員であり、その運営に一定の責任を果たしていません。日本国憲法が、第二次世界大戦中の日本の国際条約の常習的な違反を反省し、「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする」(九八条二項)と、そして「われらは、…国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」(前文)と高らかに謳いあげていることを想起すべきでしょう。ただし、われわれ市民は、日本政府が成立

に関わる条約が本当に必要なものなのかをチェックする意欲をもたなければならず、決して他人任せ(政府任せ)にしてはならないことは言うまでもありません。

今年の八月、「国連軍縮会議」が新潟市で開かれ、これに敬和学園大学の学生が、県内の他三大学の学生と共に参加しました。会議では、日本やアメリカをはじめとする各国の核軍縮政策担当者に、学生が意見を述べる機会が設けられていました。そこでなされた学生の積極的な発言に、何事も他人任せにしない教養豊かな市民が新潟の大学で育っていることを実感でき、こうした学生たちが将来の新潟を支えるのかと思うと、大変頼もしく思えました。

さて、国際法と言えば、戦争や安全保障に関するルールを定めた法とのイメージが強いと思いますが、対象とする問題領域は他にも多くあります。先ほど挙げた環境問題以外にも、海洋の利用に関する問題、国際貿易に関する問題、そして特に私が専門とし、「国際人権法」と言われる国際的な人権保障の問題などです。国際人権法は、国際社会で設定された人権保障の最低限の水準を日本をはじめとする各国が守っているかなどを研究対象としています。次に今年から始まった裁判員制度について、国際人権法学者の立場から触れます。

### ●裁判員制度と日本社会への影響

裁判員制度は、重大な犯罪を起こしたであろう被告人を裁く刑事裁判において、国民から事件ごと選ばれた裁判員が裁判



第21回国連軍縮会議 in 新潟

官と共に審理に参加する裁判員制度のことです。この原稿執筆時には、一〇件ほどの判決が裁判員裁判によって出されていますが、報道で見る限り、選ばれた裁判員の方々は誠実に職務をこなされています。また、市民の生活感覚が影響を与えている判決も見られ、今のところ成功していると考えられます。

裁判員制度が導入されることに関して、私には一つの懸念がありました。それは、現状では一般市民の法学に対する基礎知識があまりにも欠けていることです。どの専門分野や職種にも独自の考え方があり、法学もその例外ではありません。せっかく裁判員として選ばれても、法学の知識が全くなければ、自身の考えを法廷に反映させることが困難な局面にも遭遇する可能性は否定できません。日本の教育制度では、中学

校と高等学校で日本国憲法の内容を少し学ぶだけで、その他の法について勉強ができるのは大学に入ってからです。せめて、日本の主要法である民法や刑法についての簡単な手解きは、高等学校までに行っておくべきでしょう。法は、私たちの権利を守ってくれるものであると同時に、社会正義の実現という志向性も持ちます。市民に縁遠い存在であってはなりません。

このような懸念があるものの、裁判員制度の実施にはいくつかのプラスの影響が見られます。その例として次のことを挙げておきましょう。従来の刑事裁判では、被告人は逃亡防止のため、腰縄と手錠をつけられたまま法廷に入廷し、裁判官が入廷した後にそれらが外されていきました。刑事裁判には、被告人は裁判で有罪が確定するまで「罪を犯していない者」として扱われなければならぬという「無罪推定の原則」があります。誤認逮捕で裁判にかけられる被告人もいるわけですから、この原則は大変重要なものとされています。被告人が腰縄と手錠をつけられたままの姿は、裁判官にこの者が犯人であるとの予断を与えるおそれがあるので、「無罪推定の原則」に反しているとの批判がこれまでなされてきました。ところが裁判員裁判が始まると、裁判員に被告人に対する予断を抱かせないために、被告人の腰縄と手錠は、裁判員の入廷前に取り外されることになりました。もう一つ例を挙げておきましょう。それは、外国籍の被告人を裁いた裁判員裁判において、法廷でのすべてのやり取りが通訳され

たというケースです。外国籍の被告人をどの程度の通訳を介して裁くのかは、日本だけではなく各国の裁判所を悩ませている問題です。法曹関係者からは、外国籍の被告人を裁く日本の裁判員においてすべてのやり取りが通訳されることはなく、また実現不可能である、と聞いていましたのでこのケースは驚きでした。法廷でのすべてのやり取りを通訳している例は各国の裁判所を見渡しても少ないでしょう。それだけ、外国籍の被告人は外国で公正な裁判を受けられていないこととなります。一九九二年、会社の慰安旅行でオーストラリアに入国した日本人五名は、身に覚えのない大麻所持の罪で懲役一五年以上の有罪判決を一九九四年、同国の裁判所で受けました。冤罪の原因となつたのは、警察での取り調べや法廷での彼らの発言が正確に逐次に通訳されなかつ

たこととされています。こうしたことを考えると、日本の裁判員裁判で改善された日本裁判員制度は、各国に発信できるモデルを提供していると考えることができそうです。様々な可能性と問題点を秘める日本の裁判員制度ですが、一般市民が刑事裁判に入ることによって、これまで「臭いモノにはふた」で、犯罪を行った者の背後にある社会的な問題や被害者が置かれている状況に目を向けなかった風潮に少しでも変化の兆しが見られることを期待しています。そういった問題は他人任せで放置しても悪化するだけですので、市民一人ひとりが解決策を考えていくことが必要でしょう。

とはいえ、やはり裁判員に選ばれると不安…というのも正直な一般市民の感想だと思えます。そういう方は、ぜひ一月二日に東京芸術座によって公演される舞台『二人の怒れる男たち』をご覧ください。様々な意見を一般市民が繰り出すことの意義は見出せると思います。



ゼミ生と新潟地方裁判所を見学

## Profile

藤本 晃嗣 講師 プロフィール

### ■最終学歴

大阪大学大学院国際公共政策研究科  
博士後期課程 単位取得満期退学

### ■研究・演習のテーマ

国際法と人権法が専門で、日本の人権保護の水準を国際的な観点から比較検討しています。

講義やゼミでは、社会の様々なできごとを論理的に分析できるリーガル・マインドを受講者が養えるよう心がけています。



## 留学生の受け入れ 日本語・日本文化研修 プログラム(JCLP)

敬和学園大学が実施している日本語・日本文化研修プログラム(JCLP)は、海外からの留学生が本学キャンパスで学ぶプログラムです。今年は、五月にアメリカ・アリゾナ州エンブリー・リドル航空工科大学、六月にはスウェーデンと台湾からの学生を迎えて、二回実施しました。

JCLPでは、日本語のレッスンに加え、本学学生による会話パートナーが実施されています。これは留学生が生で日本語に触れられるだけでなく、本学学生の国際交流体験としても役立っています。また、茶道、剣道、和太鼓、生け花、書道などの体験を通して日本の文化を学びました。

毎週金曜日は、フィールドトリップ(小旅行)を行いました。新発田市の名所めぐり、白根大風合戦、村上大祭、新潟信濃川クルーズ、SLの旅、弥彦山を廻り、新発田市を中心に新潟を知りました。このほかにも、地域の小学校、高校で参加留学生と地域の子どもたちとの交流も行いました。

五月のプログラムでは、本学のスポーツ大会に参加し、一緒に汗を流す中で国境を越えた友情を深めました。六月には、社会福祉制度の進んだスウェーデンの学生たちを共生社会学科の授業に招き、社会保障や女性の社会進出などについて討論しました。留学生、在学生それぞれがJCLPを楽しむことができました。



フィールドトリップで新発田城へ



書道などを通じて日本文化を学ぶ



小学校での交流(聖籠町立蓮野小学校)



アメリカ合衆国  
エンブリー・リドル航空工  
科大学  
アダム・コーサク

私は、日本の食べ物がとても好きです。ウナギ、寿司、ラーメンが大好き。納豆と梅干は苦手です。去年から自分で日本語を勉強していますが、このプログラムでの日本語の授業は難しかったです。でも面白かったです。漢字は難しいけどこれからは勉強したいです。

この大学に来て、新しい友達がたくさんできたので楽しかったです。ホームステイもしました。私の家族はともやさしかったので、帰国すると会えなくなるのでとてもさみしいです。



スウェーデン  
リンシヨーピン大学  
リカード・アマデウス

日本に来てスウェーデンと違うことが多いことに気づきました。その一つは人々の態度です。日本の店に入ると店員はうれしそうな顔で「いらっしゃいませ」と言いますが、スウェーデンの店員は一般的に不機嫌な顔をします。テレビニュースでニュースキャスターは始めるときに頭を下げますが、スウェーデンではそんなことはありません。

日本人はスウェーデン人よりずっとうれしそうな民族で、サービスもいいというのが、私の結論です。



アメリカ・アリゾナ州へ留学  
夏期短期留学プログラム  
(ACLIP)

今年からアメリカ・アリゾナ州での夏期短期留学が始まりました。これはJCLIPでの交流を通じて結ばれたエンブリー・リドル航空大学（ERAU）と本学との提携により実現したものです。

第一回目となる今年は、六名の学生が留学しました。日本人のいない土地で、英語とアメリカの文化を集中的に学べるプログラムとなっており、参加学生は、英作文、英会話でのコミュニケーション、アメリカ文化の授業を受けました。

週末のフィールドトリップは、グランドキャニオン国立公園のほか、アリゾナ州各地をめぐることができました。コミュニケーション・ボランティア活動では、アメリカの子どもたちに日本の紙芝居『鶴の恩返し』を英語で披露し、折り紙等の日本の伝統的な遊びを通して交流を深めました。また、航空大学ならではの小型セスナ機によるアリゾナの空中散歩も体験しました。

プログラム期間中の宿泊は、スポーツジムやプールなどの施設が充実したエンブリー・リドル航空大学キャンパス内の学生寮で快適な時間を過ごし、週末には、現地のアメリカ人家庭でのホームステイを体験しました。

今後、互いの交流を通じて、両大学の連携がより深いものになることでしよう。  
(国際交流委員会 田邊)



英語とアメリカ文化を学習



小型セスナ機に乗って空中散歩



グランドキャニオンでの感動体験



国際文化学科二年  
岡本 学

約一カ月、アリゾナ州プレスコットで英語とアメリカ文化を勉強してきました。英語能力については「来た時に比べるとういぶん上手になりましたね」とのお褒めの言葉をいただけました。とてもお褒めの言葉をいただけました。大変好意的なので、自分の英語を改良し、アメリカの文化をよりよく学ぶことができました。

夏休みにアメリカ留学を考えている他の学生たちにも、強くこのプログラムをおすすめします。



英語文化  
コミュニケーション学科三年  
佐藤 直美

私はアメリカがとても好きで、自分の英語力を試したかったので参加しました。グランドキャニオンなど驚かされるものばかり。アメリカの長い歴史と文化を感じました。ホストファミリーはとても好意的で、たいへん親切でした。なかなか会話がうまくできず、英語で深く話せなかったことは大きなショックでした。ある先生が「英語にできる、できないはない。自信を持てば大丈夫。」とおっしゃってくれたので、リラクセスすることができました。

国連軍縮会議in新潟へ参加

# 「新潟学生非核平和宣言」を世界に発信

## 考え、行動し続ける大切さ

第二回国連軍縮会議in新潟が八月二六日から二八日に開催され、各国政府高官との意見交換会に本学の学生五人が参加しました。この会議は、年に一度世界の軍縮担当高官が集う会議です。米国のオバマ大統領は今年の春、核廃絶をめざす歴史的なブラハ演説を行いました。現在世界に二万発以上ある核兵器を限りなくゼロに近づけようという機運が世界的に高まっています。

そんな中、国連軍縮会議史上初めて学生・市民との意見交換会が公式プログラムに盛り込まれました。本学学生からも包括的核実験禁止条約（CTBT）のイニシアティブの問題、北朝鮮の核問題についての鋭い質問が軍縮担当高官に発せられました。

参加したのは、本学の他、新潟大学、新潟県立大学、新潟国際情報大学の学生です。各大学の代表学生が集い、事前の勉強会を開催し、関連書籍の輪読のほか、安全保障の専門家からのレクチャーを受けたり、核問題検討作業部会をつくって議論したりしました。一番のハイライトは「新潟学生非核平和宣言」の起草でした。何日も続く長い議論に国籍、年齢、性別も違う学生たちが耐えられたのは、核のない世界を実現したいという共通の強い意志のお陰です。この宣言は日本語、英語、中国語で書かれ、全会議終了後メディアに発表されました。

(国際文化学科 松本)



国際文化学科二年  
石橋 千尋

国連軍縮会議への参加に向けて、この夏、いくつかの大学の学生たちと一緒に勉強会を開きました。

他大学の学生たちと交流し、それぞれ意見を交わしました。それを踏まえた上で議論をし、「新潟学生非核平和宣言」を作成しました。議論をする中で、「非核を指す」と一口で言っても、そこに至るまでの方法や考え方に人それぞれ違いがあることを実感しました。

そして、初めて国際会議に参加して、様々な意見が飛び交う所を目の前で見ました。会議参加中、明治学院大学から来た学生グループに会いました。前回の会議にも参加し、平和について考え続けたいと新潟に来たそうです。考え続け、行動し続ける姿勢に感動しました。

この会議を通して、多くの人とその意見を知り、私は以前と違う視点を得ることができました。

地域に入り、地域を知る

## 新発田まつりの民俗調査

今年もゼミで新発田まつりの民俗調査を行いました。二月の発表会では、各町内から六〇人の方々が聞きにいらして、学生の取材への関心の高さを実感し、心が引き締まる思いでした。

今年七月の「台輪連絡協議会」で調査の許可をいただくところから始まりました。台輪は本来男だけの世界、その総会は、女である私にとって、「よそ者が何しに来た」と感じる視線にさらされる緊張の場です。しかし昨年度の学生の成果がそれを押しつけて、問題なく許可が下りました。

さっそくこの週から学生たちが各町内に入り、八月末の祭り本番まで町の方々の所に足を運び、一步一步調査の身を濃くしていきました。

(国際文化学科 神田)



しばた台輪の聴き取り調査

## 地域と共に

医療保健福祉系大学による「連携教育学生セミナー」

## 質の高い専門職間の連携を目指して

### 専門職が協働する大切さ

新潟県内の医療保健福祉系の七大学が集まり「連携教育学生セミナー」を八月十七日から一九日の三日間実施しました。本学からも共生社会学科の学生五名と教員一名が参加しました。このセミナーは、医療保健福祉分野において、ケアを受ける人のQOL向上に大変重要とされる「専門職連携」について学生時代から経験し、より質の高い専門職となるために企画されたものです。医師、看護師、社会福祉士、歯科衛生士、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士などの専門職を目指す学生たちが集まりました。

まず、連携教育の先進国である英国から、英国連携教育推進センター副センター長のヘレナ・ロウ先生を迎えて、講義・演習を受け、その後、グループに分かれ、一〇カ所の病院・診療所・福祉施設において、現場における専門職の実験を体験しました。そして、その結果を発表し、それぞれの体験を共有しあう中で「専門職連携」の重要性についての学びを深めていきました。

大学内で他の専門職と係ることのできない本学の学生にとって、このセミナーへの参加は大変貴重な体験となり、大きな刺激を受けたと思います。参加した五人の学生は、積極的に他の大学の学生と交流・議論し、生き生きと学んでいる姿が大変印象的でした。

(共生社会学科 青山)



共生社会学科四年  
青柳 いづみ

セミナーに参加して、他職種役割と専門性、連携の重要性を学ぶことができました。グループで活動する中で、最初は普段聞き慣れない医療に関する言葉に戸惑いました。しかし、お互いに教え合い協力していくうちに、個人の持つ知識がグループ全員の共通の知識となり、情報を同じように理解し共有できたことで活動をスムーズに進められました。看護師や薬剤師などの他職種を知ると同時に、私が目指す社会福祉士についての自分自身の理解も増し、見直すきっかけにもなりました。援助の対象者を多方面から理解し包括的に支援していくために、専門職間の連携は不可欠です。他職種の役割を知り、また自分の役割を知ってもらい、その専門性を認め合って協働していくことが、よりよい支援に繋がるのだと実感しました。専門職として医療福祉の現場に携わる前に、こういった経験ができてとてもよかったですと思います。

## 学び、成長する

### 聖籠町わんぱくキャンプに参加

英語文化コミュニケーション学科三年

齋藤 倫子

この夏、聖籠町主催のわんぱくキャンプに参加しました。普段接する機会の少ない子どもたちと二泊三日のキャンプで、登山をはじめ、たくさんのお話を共にしました。子どもたちはとても素直で、笑っている顔や楽しそうに話しかけてくれる様子を見て、いつの間にか自分も一緒に楽しんでいました。

キャンプを終えて最後のあいさつの時には、子どもたちの顔を直視できないほど寂しくなりました。私たちのあいさつの後、子どもたちからもらった「ありがとうございました」の言葉は今でも耳に残っています。できることならもう一度キャンプに参加したいです。このキャンプに参加できたこと、関わった全ての人に感謝します。



子どもたちの笑顔に囲まれて

選手も応援もボランティアもがんばりました

## たくさんさんの思いが集まった新潟国体



敬和学園大学アーチェリー部監督  
新潟県少年女子チーム監督  
夏井 博臣 ひろおみ

新潟県選手団の活躍により明るい話題を振りまいた「トキめき新潟国体」が幕を閉じました。敬和学園大学からも武下利一（バドミントン成年男子）と本間唯（アーチェリー成年女子）の二名が国体選手として出場しました。

私はアーチェリー少年女子監督として出場しましたが、実は五年近く前から新潟県のアーチェリー競技の普及と強化のためにさまざまな取り組みを続けてきました。国体競技の終了とともにたくさんさんの思い出が頭の中を駆け巡りました。同じように、出場した選手たちもこの新潟国体を意識しながら日々厳しい練習を続けてきており、この国体はこのような多くの思いの集大成であったと思います。本学から出場した二名も新潟県代表の名に恥じない素晴らしいプレイで私たちに感動を与えてくれました。

また、揃いのTシャツや横断幕を用意して応援に来てくれた学生の皆さん、教職員の方々、本当にありがとうございます。力強く暖かい応援で、敬和の学生だけでなく、他の選手も大きな力をいただきました。これで新潟国体は終了ですが、これからも大会は続いていきます。また次に向けてみんなでがんばっていききたいと思います。

## 皆さんの応援に感謝



国際文化学科二年  
武下 利一

地元新潟の国体を終えて、まず応援してくれた皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございます。今回は地元の国体ということで、試合前から監督やたくさんさんのスタッフの方々に、様々な形でサポートしていた

## 新しい自分を発見



英語文化コミュニケーション学科二年  
市橋 若奈

私はトキめき新潟国体（聖籠町会場）に、一〇月一日から四日間、ボランティアとして参加させていただきました。国体という大きなイベントということで、全国から大勢の選手やスタッフの方々が一同に集まって、会場はとて

だきました。それに応えられるよう試合で結果を残したいと思っていました。が、準々決勝で負けてしまい、不甲斐なかったです。

また団体戦ということで、チーム員のみならず協力して優勝を目指してやってきたので、本当に残念な気持ちでいっぱいです。

この悔しい思いを次の機会にぶつけていきたいと思えます。そして、今回の経験を活かし、来年の国体では今年以上によい結果を残し、新潟の皆さんに喜んでもらいたいです。

## ●バドミントン成年男子 五位入賞

も盛り上がっていました。私の主な仕事は、敷地内のゴミ回収でしたが、役員の方々やボランティアの方々との協力して仕事をしていく中で、これまで以上にエゴへの関心が高められました。

また、普段は一緒にお仕事をする機会のない方々とお仕事させていただきました。皆さんから様々なお話を伺うことができ、自分にとって大きなプラスになったと感じています。

今回のボランティアを通して、自分の視野を広げられました。また、自身の新たな一面も知ることができました。またこのような機会があれば参加してみたいです。

学生一人ひとりにあわせた支援を目指して

## 小人数教育を活かしたキャリア支援

大学生のキャリア形成や就職に関する問題がたびたび取り上げられる中、本学では、従来より学生のキャリア・プランニングとその実践を支援しております。そしてこのたび、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業（平成二十一年度）に、本学申請の「小人数教育を活かした学士力を養うパーソナルなキャリア支援」が採択されました。この事業は、各大学等の学士力確保や教育力向上への取り組みの中から、達成目標が明確でその効果が見込まれるものを選定し、財政支援を行うものです。

本学の大きな特徴である「小人数教育」を活かし、これまでも学生が大学で遭遇する様々な局面に際し、各教職員がサポートしてまいりました。今後は更に、学生一人ひとりの「パーソナル」な状況をキャリア支援に反映させる工夫をしてまいります。大きな取り組みとして、学生の入学前の進路希望、在学中の状況、進路選択、そして卒業後までの情報を一貫して管理していく工夫をすることが挙げられます。ここに集約された情報を活用し、学生のライフ・サイクルに沿った支援を行う「エンロールメント・マネジメント」の体制を強化します。そして、キャリア・プランニングとその実践を目的としたガイダンスや「キャリア開発」、「キャリア開発入門」により、初年次から大学生活全体と自分の将来を結び付け

て考え、行動するよう、学生に働きかけていきます。

その他、各種支援講座（秘書、販売士、簿記、公務員などの各検定・試験対策講座、就職対策数学講座等）を開講し、大学生に求められる総合的な「学士力」養成をサポートしていきます。より学生のニーズに合ったキャリア支援の在り方を模索するためにも、パーソナルな学生情報を活かしていきます。

本学のキャリア支援の取り組みに関し、学生たちが充実した大学生活を送り、より納得のいく進路選択、キャリア形成ができるよう、ご意見・ご要望などお聞かせいただければ幸いです。（就職委員長 杉村）



「マナー講座」で正しいおじぎの仕方を実習

保護者の立場から

## 就職に向けて大学に期待すること

共生社会学科三年生保護者

和田 道弘さん

「就職氷河期」、「有効求人倍率の低下」等の言葉がメディアを賑わす中で、息子の動向がつかめない。そんな折、大学から「保護者との就職懇談会」の案内をいただきました。大学がこんなことまでするのかと意外な思いと好奇心から出席の返事を出しました。

三〇年以上昔の自分の就職活動を振り返り、はて私の大学は何をしてくれたのか…。そう言えば、当時就職試験に大学の推薦書が必要とあり、大学の事務所に行ったところ「君の性格は」と聞かれて「温厚だと思えます」と答え、それだけで推薦書がくれました。それを会社に提出、試験を受け合格、入社。今はそんな悠長な時代では無いようだと思いつつ、懇談会に出席しました。

昨今の就職戦線の状況の説明、そして大学の取り組みについての説明があり、壇上からは保護者に厳しい状況の認識を求めめる声が相次ぎました。

大学側の危機意識や熱心さが伝わってきて、大学にこれ以上何もお願いすることはないなと思いましたが、お願いするとして一つだけ。学生たちが実社会で通用する教養、人間性を身につけるための動機づけを繰り返してほしいです。

世代を超えたふれあいを実現

## 夏休み子ども陶芸教室

聖籠町との共催による小学生対象の陶芸教室を本学の趙晤衍先生を講師に七月一八日、八月一日の二回にわたり、開催しました。子どもたち二九名、親御さん六名の参加に加え、地域の陶芸愛好者の皆さんや本学陶芸部の学生がボランティアとして手伝ってくださいました。

子どもたちも親御さんも終始笑顔を絶やさず、時には真剣な表情で、世界にひとつしかない自分だけの作品を創作しました。子どもたちの自由な発想に感銘を受けると同時に、お父さんへのぐい呑みやおはあちゃんへの壁掛けなど、家族への感謝を込めた作品づくりに心打たれました。

地域社会での世代を超えたふれあいが実感できる楽しい二日間となりました。

(広報委員長 金山)



趙先生の説明を真剣に聴く子どもたち

学業・スポーツをがんばる高校生へ

## 推薦入学試験がスタート

六月から始まったオープンキャンパスも、おかげさまで大盛況のうちに開催され、残すところ敬和祭と同日に実施する第五回のみとなりました。そして、敬和祭翌日の一〇月二六日(月)からは、いよいよ推薦入学試験の出願受付が始まります。

今年は一二月一四日(土)に、指定校推薦入学試験(I・II)、公募推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験を実施します。

指定校推薦入学試験では、今年も特待生特別選抜を実施します。評定平均値四・〇以上の受験生を対象とし、試験科目は小論文と面接です。特待生として採用された受験生には授業料全額または半額免除の資格が与えられます。

また、昨年度から始まったスポーツ推薦入学試験では、本学の強化スポーツ種目であるバドミントン、アーチェリー、テニスで優秀な成績を収めた受験生を対象に選抜を行います。こちらもスポーツ特待生制度があり、受験生には授業料等免除のチャンスがあります。入学後には、新潟国体で活躍した先輩たちと一緒に、実績のある監督の指導のもと、全国レベルでの活躍を目指します。

本学への進学を考えている方がいらっしゃいましたら、お気軽に入試課(☎〇一二〇一三六―三六三七)までお問い合わせください。

(入試委員会)

## 舞台『二人の怒れる男たち』

八月から裁判員裁判が始まりました。個人的には、いくつかの裁判において裁判員の性別に偏りがあったことが気になりました。なぜなら評決の背後に裁判員それぞれの愛憎が存在するからです。

今回の舞台では、頑固で、声高で、若者への偏見をむき出しにし、最後まで被告の有罪にこだわる陪審員三号が登場します。被告をめぐる討論の中で、「うるさい親父」であるこの人の中に、自分に背いた息子に対する憤りや憎しみが、同世代の被告の少年に向かって見えているのが見えてきます。そんな陪審員それぞれの背後にあるストーリーが見え隠れすることで、単に煙たい人として三号を片づける訳にはいかなくなる、この戯曲の面白さはそんなところにもあると思います。

(広報委員長 金山)



6月の新発田市オープン・カレッジで講演くださいました東京芸術座演出家の稲垣純さんが8月10日天に召されました。病氣療養中でありながら、身体を整えて新発田へお越しくださいましたことに心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

日時 一月二一日 一三時三〇分  
問合せ 敬和学園大学 総務課

## 第一九回 敬和祭を開催します

今年の敬和祭のテーマは「We're Dreamers」魅せるぜ敬和の青春」です。学内にとどまりがちな私たちの若さみなぎる活動を学外の方々に披露し、夢に向かって突き進むという熱い思いを表現しました。

今回の目玉は、おなじみの「アンガールズ」のお笑いライブです。癒しを感じるお二人のパフォーマンスを楽しみにご来場ください。そのほか、敬和学園高校よさこい同好会、聖籠太鼓、本学ブラスバンド部やチアリーダー部による公演、バラエティ豊かなメニューを揃えた屋台など、数多くの催しを企画しています。

外国語スピーチコンテストでは、幅広い年齢層の方々が日頃の語学学習の成果を発表します。オープンキャンパスも同時開催し、盛りだくさんの二日間です。多くの方々のご来場をお待ちしております。  
(敬和祭実行委員会)



### 2009 敬和祭のスケジュール

月 日	時 間	企 画
10月23日 (金)	13:30~16:00	敬和ふれあいバラエティ
10月24日 (土)	11:00~16:00	屋台・教室展示 (両日とも)
	10:00~16:00	茶道部茶会 (写真)
	12:00~14:00	FMラジオサークルFMしばた生中継・収録
	13:00~16:00	外山節子先生による「英語で遊ぼう!」
	11:30~12:00	クレーイとホオオ・モハラ・ハラウによるフラダンス公演
	12:30~13:00	聖籠太鼓・響・SATO-OTOによる公演
10月25日 (日)	13:30~14:30	ブラスバンド部による公演
	11:30~17:30	学生ライブ (写真)
	11:50~14:00	外国語スピーチコンテスト
	13:10~13:30	敬和学園高校よさこい同好会による公演
	13:30~14:00	チアリーダー部によるダンス公演
	14:00~15:00	「アンガールズ」お笑いライブ&抽選会



### 寄付者ご芳名 (敬称略)

#### 〈一 般〉

馬場 大善 藤井 研一、  
 檜部 ふじ 林 律子、  
 細野 ヤエ 猪股 チセ、  
 伊藤 國夫 和泉 正二、  
 笠原佐千子 桐生 恵理、  
 小林 純一 近藤 由松、  
 熊谷 伸幸 森田 信子、  
 西八條敬洪 奥田 富子、  
 尾崎 秀一 斎藤 信夫、  
 坂上 富男 坂井 情二、  
 佐藤知恵子 篠原 裕子、  
 鈴木 長栄 田坂ゆたか、  
 寺尾 一美 内田 力、  
 山際多美子 横井 政時、  
 横山キミイ、  
 日本基督教団代田教会

#### 〈卒業生〉

今井正仁 (一)、 有澤未欧 (七)、  
 佐藤正教 (二四)、 永井清人 (二五)、  
 胡 志成 (二五)

#### 〈学園関係〉

新井明、  
 オレンジ会、敬和学園大学後援会 (二)  
 (一) 内、漢数字は期生、算用数字は回数

本学にお寄せくださった皆さまのご支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。



## 続けられる価値との出会い



一九九七年度卒業

織田 智頼

卒業してから早一〇数年。学生時代を振り返れば様々なことをしてきましたが、これだけは何よりも濃くはまだ続けているといえることがあります。

現在、私は仕事をしながら『舞台屋織田組』というアマチュア劇団を主宰し、年二回の公演やアマチュア映画に出演するなどの活動をしています。そもそも演劇との出会いは学生時代にさかのぼります。ハッキリ言つてこの分野、苦手であり、「大キライ」でした。何が楽しくて、嬉しいのか？そしてこんな意味もなく恥ずかしいことをやって何になるのか？ あげればキリがないくらいです。だから当然、私と結びつくはずもなかったのですが……。

大学というのは人種のもつぽです。これまでの生活範囲を超えて様々な人が集まり、同時に様々な物事も起こります。そしてそこで出会った何人か、物事のいくつかは後々の人生に深く関わっていくものだと思います。当時、私は初めての一人暮らしに戸惑う毎日でした。その中で友人たちと過ごすわずかな時間は何よりも安らぎになりました。それ以外はアパートで一人ぼっちです。ですから現状を変えるために

も、数少ない友人たちとの接点を多く持ちたいという思いが強くなりました。そしてその接点が演劇でした。たとえ「大キライ」な分野でも飛び込んでみるだけの価値がある、そう思つて始めるまでに至つた時間は約一年。やっと踏み出せた一歩です。そして気がつくとい〇数年。ここまで続けているとは当時は思いもありませんでした。

演劇は決して楽なものではありません。人には見せることのない「キツイ」「ツライ」「グルシイ」の三重苦の努力が華やかな舞台を支えています。それを費やすだけの価値あるものがそこには存在します。あの当時はなければ、敬和学園大学に來なければ今の自分はなかった。そして趣味という領域を超え、ライフワークとなつてしまった演劇活動。カラダが動くかぎり、目の前に観客がいるかぎり、舞台上に立ち続けたい、今ではそう思っています。



舞台『椿説 夜叉ヶ池』のワンシーン

## 学事予告

## ◆一〇月◆

- 一日 履修登録票提出期間(二日まで)
- 六日 新潟市北区オープン・カレッジ②
- 九日 教養リフレッシュ・リトリート
- 一日 新発田朝市十二齋市
- 三日 履修登録確認期間(一九日まで)
- 新潟市北区オープン・カレッジ③
- 十五日 学費後期納入最終日
- 一七日 共生社会科学公開学術講演会
- 二〇日 新潟市北区オープン・カレッジ④
- 二三日 ふれあいバラエティ
- 二四日 敬和祭(二五日まで)
- 二五日 オープンキャンパス⑤
- 外国語スピーチコンテスト
- 新潟市北区オープン・カレッジ⑤

## ◆十一月◆

- 五日 社会福祉事前実習③
- 七日 一・二年生保護者との懇談会
- 一日 企業との就職懇談会
- 四日 推薦入学試験
- 一六日 社会福祉現場実習②(二八日まで)
- 二日 舞台『二人の怒れる男たち』
- 二八日 高校・大学合同研修会

## ◆十二月◆

- 一八日 クリスマス行事
- 二三日 冬期休暇(一月三日まで)

# キャンパス日誌

## 7 July

- 1 教授会  
第2回阿賀北ロマン賞作品募集(～9月30日)
- 3 チャペル・アッセンブリ・アワー①  
説教 大澤秀夫 宗教部長  
「兄弟に『ばか』と言う者は」  
講話 松永保智 新津福音キリスト教会牧師  
「カルトと宗教」
- 8 ボランティア論・学習セミナー
- 10 チャペル・アッセンブリ・アワー⑫  
説教 高橋稔 日本基督教団中条教会牧師  
「恐れるな」  
講話 喜田修 長栄大学前客員教授  
「最近の台湾情勢と中台関係」
- 17 チャペル・アッセンブリ・アワー⑬  
説教 鈴木佳秀 学長  
「立ち帰って、生きよ」  
キリスト教音楽の受講者  
によるコーラス(写真①)
- 18 3年生保護者との就職懇談会  
(新潟グランドホテル、69名)  
聖籠町キッズ・カレッジ①(35名)(写真②)  
講師 趙語衍 准教授「夏休み子ども陶芸教室」  
夏期短期留学:エンブリー・リドル航空大学  
(～8月15日、6名)(写真③)
- 19 オープンキャンパス②
- 23 前期講義終了
- 24 前期末試験(～8月1日)
- 25 大学オープン・カレッジ③④(～26日、87名)  
講師 吉田新一 立教大学名誉教授  
「絵本の愉しみ3」  
JCLPⅡ さよならパーティー
- 27 新発田南高校イングリッシュ・セミナー(120名)  
高志高校大学見学(40名)  
村松高校大学見学(40名)
- 28 新発田南高校イングリッシュ・セミナー(80名)  
五泉高校大学見学(47名)
- 31 社会福祉現場実習1 報告会



## 8 August

- 2 夏期休暇(～9月23日)
- 3 久比岐高校大学見学(30名)  
前期集中講義(～7日)  
夏期短期留学:ワシントン・アカデミー・オブ・  
ランゲージズ(～9月4日、2名)

- 7 教員免許状更新講習(27名)  
中・高校生対象文章スキルアップ・セミナー(12名)  
講師 加藤宗哉 作家・「三田文学」編集長  
「プロの作家に学ぶ文章作法」
- 11 聖籠町キッズ・カレッジ②(35名)  
講師 趙語衍 准教授「夏休み子ども陶芸教室」
- 17 前期集中講義(～20日)
- 21 職員研修会・職員旅行(～22日)
- 23 オープンキャンパス③
- 26 国連軍縮会議 in 新潟  
(朱鷺メッセ、～28日、学生5名、教員2名)
- 27 城下町新発田ふるさとまつり民謡流し  
(学生17名、教職員19名)
- 31 長期留学:メルボルン大学付属  
ホーソン英語学校  
(～2月19日、1名)



## 9 September

- 1 教育実習事前指導研修(写真④)  
(国立妙高少年自然の家、～3日)  
社会福祉士国家試験対策講座3(写真⑤)  
(新潟県青少年研修センター、～3日)



- 2 前期追試験(～4日)
- 5 シニア生涯学習相談会  
(新潟大学駅南キャンパス  
ときめいとプラカ1 2F)
- 9 教授会
- 11 共生型大学連携事業(写真⑥)  
「くらしの中にある大学」(朱鷺メッセ、～12日)
- 17 前期卒業式(写真⑦)
- 18 新潟東高校大学見学(45名)
- 19 シニア生涯学習相談会
- 23 オープンキャンパス④



- 24 履修相談日  
理事会
- 25 後期講義開始  
履修登録期間(～10月1日)  
チャペル・アッセンブリ・アワー⑭  
説教 鈴木佳秀 学長「タラントンの委託」  
前期エッセイ・コンテスト授賞式  
前期資格取得奨励奨学金授与式
- 26 人文社会科学研究所シンポジウム(写真⑧)  
「地域社会で生かすリベラル・アーツ」  
シンポジスト 鈴木佳秀 学長  
葛西康徳 大妻女子大学教授  
山田耕太 副学長  
(新発田市生涯学習センター)



# Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol. 27

## 異なる価値を認めること

英語文化コミュニケーション学科 3年  
森山 貢



陪審員7号を演じる森山さん(中央)

僕は「ドラマ」の授業で、陪審員3号と7号の役で『12人の怒れる男たち』を英語で精読しました。

想像してみてください、あなたが裁判員の一人に選ばれることを。正直なところ難しいですよね。人の人生を左右するかもしれないのですから。3号も7号も被告少年の有罪に投票した人たちですが、自分の息子と被告を重ね合わせた3号や、大好きな野球のために早く終わらせた一心の7号、有罪に投票した理由のよし悪しは別として、その両者が違った視点で有罪へ至った経緯に少なからず共感できる部分がありました。

『12人の怒れる男たち』では、そんな考えや性格、年齢、価値観、生まれ育った環境など、全く違う男たちが意見をぶつけ合い、認め合いながら1つの判決を下していく過程が描かれています。特に、物語が展開するにつれて疑わしき証言を検証していく様は、引き込まれるものがあります。

11月の舞台公演では、自分自身をテキストとは違う実際の劇場空間に身を置き、自分なりの判決を出してみたいです。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

